

平成30年度 上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第1回 グループホーム 部会	参加者数	24人	会場	伊那市 福祉まちづくりセンター 2階 大会議室
	日時	平成30年7月18日(水) 13:30 ~ 15:25				
主 テ マ	<p>1 本年度の活動計画について</p> <p>2 各グループホーム運営法人の現状と課題について</p>					
主 な 意 見 な ど	<p>1 について(木下部会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年3~4回開催予定。 ・防災・災害への対応、世話人研修会の他、皆さんの要望も踏まえながら、活動していきたい。 <p>2 について</p> <p>(1) 上伊那圏域のグループホーム部会の歩みと今後の方向性について(辰野アドバイザー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標記について、これまでの歩みの大概とグループホームからの地域移行をどう考えるか、課題提起があった。 <p>(2) グループホーム運営法人の現状と課題についての意見交換(参加者全員)</p> <p>○事前アンケート集計結果も踏まえつつ、6つのテーマに沿って、グループホーム運営法人代表者による意見交換を行った。概要は次のとおり。</p> <p>ア 世話人対象の研修会実施状況及び当部会の世話人研修会への参加について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神障害の関係の研修を受けたい。できれば出前講座のような形がありがたい(駒ヶ根市社会福祉協議会) ・重度の方のグループホームは、全介助が必要な方もいる。年1回でもいいので、介助方法などの研修機会がほしい。高齢化が進むと他のグループホームでも同じような課題が出てくると思う(パンセの会) →ケアマネ研修の案内をする等、介護分野とのヨコの連携も意識しながら、考えたい(部会長・事務局) <p>イ サテライト型グループホーム設置について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サテライト利用者がいる。1人で住めることが利用条件。時限的な制度であり、サテライトを使って自立度を高め、希望があれば段階的にアパート生活等へ移行できるよう支援している(アンサンプル伊那) ・アパート形式のグループホームがあり、1人暮らしに向けての疑似体験は可能。余暇や休日の過ごし方、食事等、細かな支援も必要になる。世話人の負担も増す。全県的なレベルでの議論が必要(ほっと上伊那) ・1人暮らしへの移行課題として、アパートの保証人問題がある。サテライト型なら、法人が契約者であり、問題はない。(辰野アドバイザー) ・障がいのある方を受け入れてくださる大家さんの理解を広げることも重要である(木下部会長) <p>ウ 防災に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H30.7の大雨で避難準備発令を受け、重度の方のグループホームでは西駒郷への避難を行った。教訓として、該当するホームがどんな災害危険地域に立地しているかの把握と、刻々と変わる災害情報に対する職員間の連絡・情報共有、管理者の決断の大切さを学んだ(ほっと上伊那) ・避難所の環境はホームと異なる。様々な反応が起こることを想定した災害対応が必要(きらりあ所長) ・重度の方は、市役所や社協といった公共施設での受入を要望する必要性を感じた(パンセの会) <p>エ 世話人確保等の課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模ホームでは職員数がギリギリ。非常勤が多く確保に課題を感じる。世話人登録制度があり、必要な時に連絡すれば、世話人が確保できるようになるとありがたい(おもちゃの木) ・重度のホームの世話人は介護もできないと厳しい。登録制で誰でもOKとはいかない。プライバシーの問題もあると思う。小規模だと給与を捻出することすら難しい(パンセの会) ・外部の事業所に依頼するのはどうか(アンサンプル伊那)→福祉サービスとしては困難(おもちゃの木) ・求人を出しても集まらない。素人が応募することもある。支援の専門性として利用者に今行っていることの意味を説明できることが必要。縦割りの福祉サービスや支給決定のあり方も見直してほしい(ほっと上伊那) <p>オ 日中サービス支援型共同生活援助について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日中サービス支援型共同生活援助についての概要説明(事務局より) (利用者の重度・高齢化を考慮し日中活動支援も行うホーム。短期入所機能を併設することが条件) ・該当する利用者があり、申請を検討したが、報酬単価や制度の縛りもあり、なかなか使いにくい制度だと感じた(おもちゃの木) <p>カ その他(部会への要望、圏域の課題等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世話人の高齢化と聴覚障がいのグループホームなので、誰でも世話人を頼めるわけではないことが課題。今後も部会を通して、情報交換や学習などができるとありがたい(もみじの家) ・必要ならグループホームを作りたいが、本当のニーズがどこにあるか掴みきれていない(ファイブローズ) ・世話人は若い人ばかりでも困る。ベテランの方の落ち着いた対応も魅力。バランスが大事(こまネット) ・グループホームの空き状況の情報共有、集約を図りたい。当部会かきらりあが事務局となって、把握できると、相談支援専門員へのスムーズな情報提供も可能になると思う(木下部会長・事務局) 					
ま と め	<p>・グループホーム運営法人の代表者が集まり、圏域の課題を各々の立場から多角的に考えることができた。</p>					
次 回	<p>・次回は、H30.9.26(水)午後の開催を予定している。時間、場所等、詳細は後日お伝えする。</p>					